大学院教育学研究科

所属・職位 大学院教育学研究科(教職大学院)・准教授

氏 名 髙橋 徹弥 (Takahashi Tetsuya)

取 得 学 位 修士 (教育学), 大分大学, 1997年3月

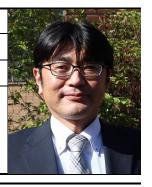
SDGs目標











研 究 分 野 特別支援教育

研究キーワード インクルーシブ教育、合理的配慮、特別の教育課程、動作法

研究内容

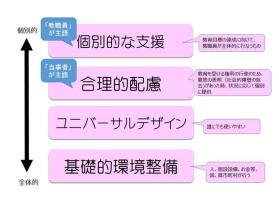
●インクルーシブ教育に関する研究

インクルーシブ教育システムにおいて、連続する多様な学びの場が制度として整備される中、運用に おける課題として小中学校における特別支援学級における授業の充実が挙げられる。中学校から高校に 進学する生徒にも対応した、生徒の実態に即した教育課程について検討した。

●合理的配慮に関する研究

2016年度大分県「多様な学びの場充実モデル実践事業」の委員として参加した。特別支援学校の特別

支援教育コーディネーターとして巡回相談に関わりながら、議論に加わった。高校現場からの合理的配慮に関する相談に対応する中で、合理的配慮における障害者の権利としての側面の理解が不十分だと感じるとともに、従来の個別的な支援・指導と合理的配慮を混同してしまうことで対応に苦慮していることを感じた。そこで具体的な事例を検討しながら関連する語句を右図の通り整理した。



●動作法の学校現場での活用についての実践・研究

学部学生の時から動作法の週例会・月例会・集中訓練会(キャンプ)等に参加し、1998年に特別支援 学校教員に採用されてからは、肢体不自由や知的障害のある児童生徒に対する自立活動の指導の中で動 作法を活用してきた。2022年度には中堅教諭等資質向上研修の指導教員として病弱(不安障害)の児童 への実践を担任教諭とともに研究報告書にまとめた。

研究業績・ アピールポイント

これまでに、特別支援学校で高等部を中心に教諭として勤務した経験、特別支援教育コーディネーターとして巡回相談を担当した経験、「大分県小中学校特別支援教育充実事業」でサテライトコーディネーターとして特別支援学校に加えて小中学校3校を兼務し、特別支援学級の教育課程の改善や指導の充実に深く関わった経験を重ねてきた。実務家教員として、特別支援学校に関わる研究に加え、インクルーシブな社会に向けて多様な学びの場で障害の有無にかかわらず児童生徒が最大限に能力等を発達させることができるしくみや指導方法の研究・教育に努めていきたい。